

第1回 東京 憲法を起草する会

令和3年10月22日

講演内容

- 1 「**憲法を起草する会**」について
- 2 **情勢認識**
- 3 **現状そして将来の問題**
- 4 **日本文化という将来の選択肢**
- 5 **私たちの将来は私たちの手で**

趣旨と経緯

- ◆ **趣旨**: 私たち一人一人が、日本創成の当事者として、考え行動する。
- ◆ **経緯**: 平成22年7月「憲法を起草する会」発足
平成30年9月まで85回(91回)開催
平成30年11月 国際共生創成協会
「熊野飛鳥むすびの里」開設
令和3年4月大阪「憲法を起草する会」開催
令和3年10月東京「憲法を起草する会」開催

講演内容

- 1 「憲法を起草する会」について
- 2 **情勢認識**
- 3 現状そして将来の問題
- 4 日本文化という将来の選択肢
- 5 私たちの将来は私たちの手で

グローバリズムとの戦い

- 宗教秩序によるグローバリゼーション
1549～1587 布教団体イエズス会

- 植民地化グローバリゼーション
1853 ペリー来襲

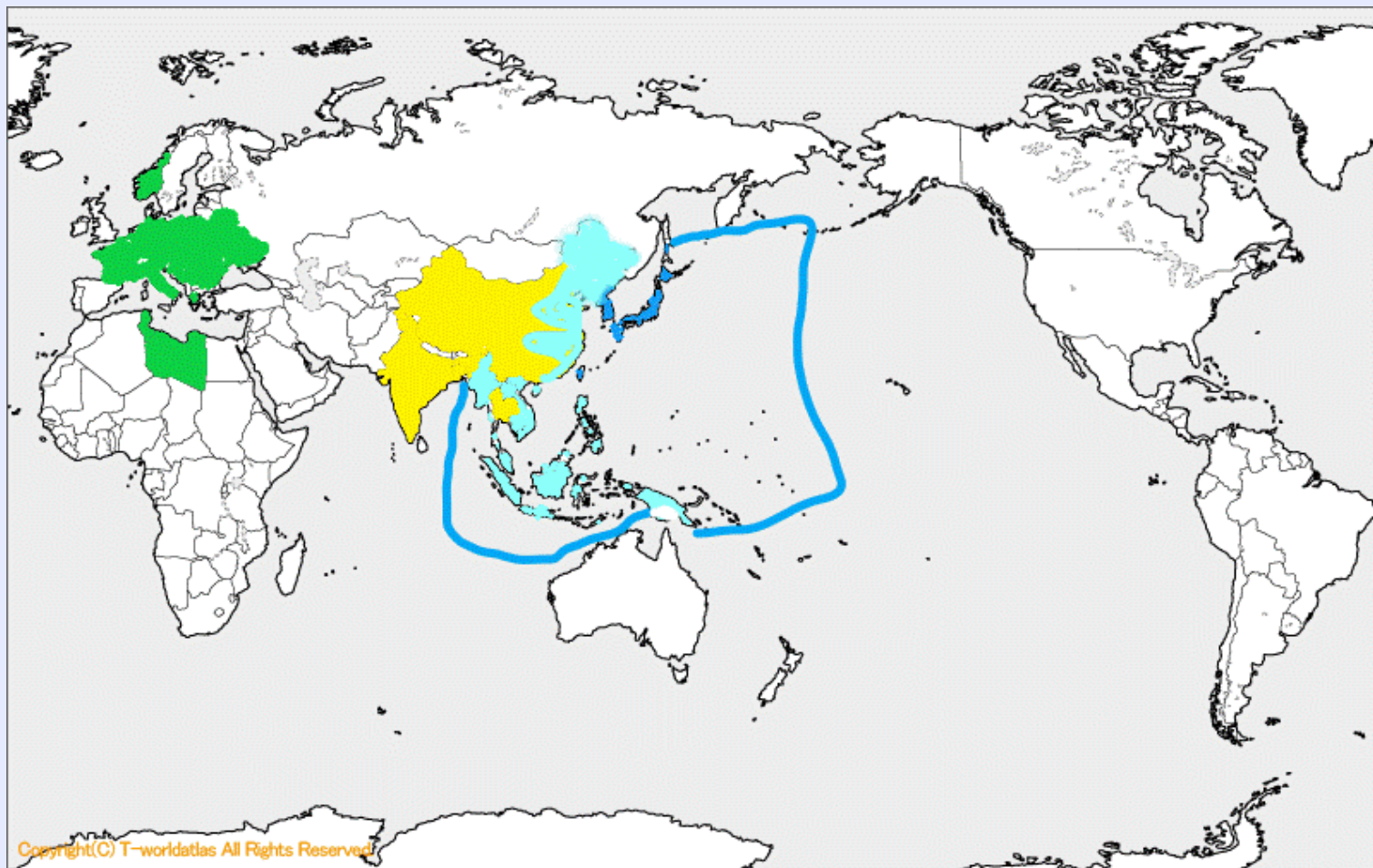
これ以降、大東亜戦争に至るまで国民一丸となってグローバリゼーションと戦ってきた。

大東亜共同宣言(昭和18年11月)

(現代語訳)

- 一、大東亜各國は、協同して大東亜の安定を確保し
道義に基く共存共栄の秩序を建設する
- 一、大東亜各國は、相互に自主獨立を尊重し
互助親睦の実を挙げ、大東亜の親和を確立する
- 一、大東亜各國は、相互に伝統を尊重し
各民族の創造性を伸張して、大東亜の文化を高揚する
- 一、大東亜各國は、互恵のもと、緊密に提携し
經濟發展を図り、大東亜の繁栄を増進する
- 一、大東亜各國は、万国との交誼をあつくして
人種的差別を撤廃し、さまざまな文化を交流し
すすんで資源を開放して、世界の發展に貢献する

日本の提案する秩序が普及 あるいは賛同した地域



グローバリズムによる支配

終戦後の7年間に及ぶ米軍占領下に日本国はグローバリストの手先と化してしまっただ。

自分たちが何を守ろうとしていたのか何と戦っていたのかを完全に忘れてしまい日本人が命をかけて守ろうとしていたものを日本人自らが破壊することとなる。

冷戦後の国際情勢の推移

【東西冷戦間】 資本主義と共産主義の対立

西側諸国家が資本主義経済圏を形成、共産主義に対抗するため自国民を経済的に手厚く保護
この間日本は、格差の少ない日本型資本主義システムにより、国民全員が経済成長の恩恵を享受

【冷戦後】 新世界秩序への始動

市場は、資本の自由移動(市場原理)への国家の関与を排除
市場原理が国家内部に浸透し国家は国民の社会的保護を放棄
国家は市場の支配下

経済的中間層が消滅し少数の富裕層と大多数の困窮層へと貧富の格差が拡大

【現在】

バイオ・パンデミックにより
支配者と被支配者の完全なる分別
パワーエリートをトップとする
地球レベルでの
政治・経済・金融・社会政策の統一

【近年】 アンチ・グローバル資本主義化

各国で市場化を主動するエリート層への
反発の多様な動きが拡大

- グローバル化に抵抗するテロ
- 米国のようなナショナリズム国家
- ロシア等伝統的反市場主義国家
- ISのようなイスラム法国家の台頭

【将来?】

末端の個人レベルでの思想や行動を
統制・統御する管理社会の実現

【将来?】

ポスト・グローバル資本主義
日本型共助共栄社会の実現

グローバリズムとの戦い

新自由主義グローバリゼーション

1990 「新世界秩序に向けて」
パパ・ブッシュ米大統領

新世界秩序 (New World Order)

W・チャーチル英首相

国民主権国家を廃絶し世界政府の管理による恒久的な平和体制の実現が不可欠である。

世界政府のパワーエリートをトップとする地球レベルでの政治・経済・金融・社会政策の統一
究極的には末端の個人レベルでの思想や行動の統制・統御を目的とする管理社会の実現を指すもの

市場原理すなわちマネーによる自由競争に勝利した個人が世界のルールメイカーの地位を得る。

世界の主役は国家ではなく個人

- 民主主義は終わり市場原理(自由競争)主義
- 価値基準はマネー
- 市場のプレイヤーは国家ではなく個人
- 自由競争の勝者が世界秩序を形成
 パワーエリートが世界のルールメーカー

「フォーブス400」

今年も新型コロナウイルスのパンデミック発生にもかかわらず番付に入った富豪400人の保有資産総計は前年比8%増の3兆2000億ドル(約340兆円)となり、同番付約40年の歴史で最高を記録した。

富の大部分は少数の大富豪に集中しており、トップ20に入った21人(20位はタイ)が保有資産総計の42%を占めている。

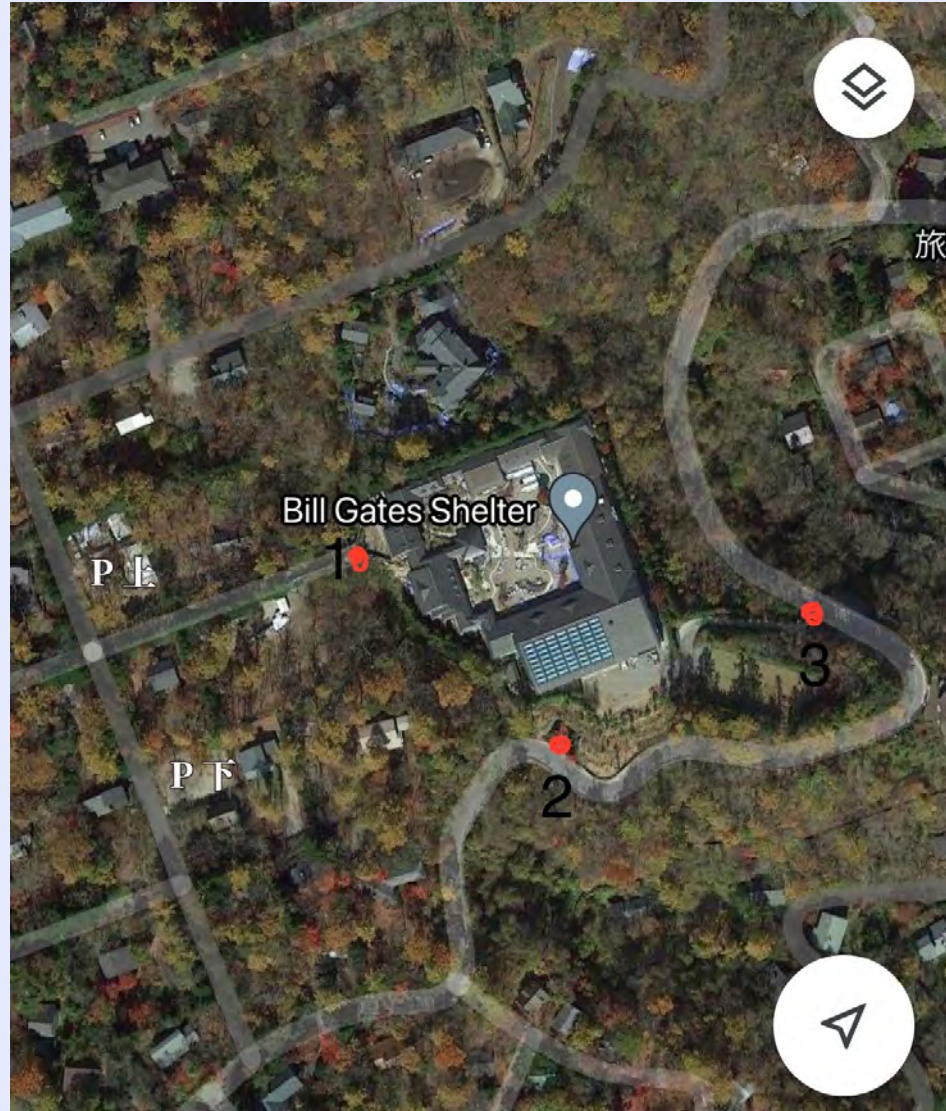
- 1位 ジェフ・ベゾス(アマゾン・ドット・コム) / 1790億ドル
- 2位 ビル・ゲイツ(マイクロソフト) / 1110億ドル
- 3位 マーク・ザッカーバーグ(フェイスブック) / 850億ドル
- 4位 ウォーレン・バフェット(バークシャー・ハサウェイ) / 735億ドル
- 5位 ラリー・エリソン(ソフトウェア事業) / 720億ドル
- 6位 スティーブ・バルマー(マイクロソフト) / 690億ドル
- 7位 イーロン・マスク(テスラ、スペースX) / 680億ドル
- 8位 ラリー・ページ(グーグル) / 675億ドル
- 9位 セルゲイ・ブリン(グーグル) / 657億ドル
- 10位 アリス・ウォルトン(ウォルマート) / 623億ドル

2021フォーブス世界長者番付

2020年から2021年にかけて世界中をパンデミックによる不況が襲ったにもかかわらず、**超富裕層の資産は前年より40%も増えた。**

1	ジェフ・ベゾス	アマゾン	2010億ドル
2	イーロン・マスク	テスラ	1905
3	ベルナール・アルノー	LVMH	1345
4	ビル・ゲイツ	マイクロソフト	1340
5	マーク・ザッカーバーグ	フェイスブック	1230
6	ウォーレン・バフェット	バークシャー	1185
7	ラリー・エリソン	オラクル	1173
8	ラリー・ページ	グーグル	1020
9	セルゲイ・ブリン	グーグル	965
10	ムケシュ・アンバニ	リライアンス	700

ビル・ゲイツ



WHO 10大出資者(2018-2019年度) 単位:100万ドル

出資額=分担金+寄付金(使途指定)+寄付金(指定なし)=総額 比率

1	<u>アメリカ合衆国</u>	893	15.9%
2	<u>ビル&メリンダ・ゲイツ財団</u>	531	9.4%
3	<u>イギリス</u>	435	7.7%
4	<u>GAVIアライアンス</u>	371	6.6%
5	<u>ドイツ</u>	292	5.2%
6	<u>日本</u>	214	3.8%
7	<u>国際連合人道問題調整事務所</u>	192	3.4%
8	<u>国際ロータリー</u>	143	2.5%
9	<u>世界銀行</u>	133	2.4%
10	<u>欧州委員会</u>	131	2.3%
	その他出資者	2,289	40.7%

コロナウイルス病 2019 (COVID-19)に関する WHO-中国合同ミッション報告書

2020年2月16-24日

中国の対応

世界の多くの地域では中国で用いられた
COVID-19 の封じ込め対策を実践するため
の心がまえも物資の準備もまだできていない
。これらはヒトにおける感染の連鎖を阻止又は
最小化 することが現時点で証明されている唯一
の対策である。

パワーエリートにとっての 国家の使い道

(中国のように)

国家の持つ法的強制力を
管理社会の形成に使用する

WEF クラウス・シュワブ、ビル・ゲイツ等

FSG エリック・プリンス(新疆ウイグル自治区の対テロ訓練アドバイザー)

講演内容

- 1 「憲法を起草する会」について
- 2 情勢認識
- 3 **現状そして将来の問題**
- 4 日本文化という将来の選択肢
- 5 私たちの将来は私たちの手で

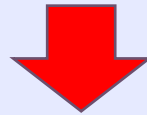
自由競争の勝利者が支配する世界

現状「新型コロナ対策」

恐怖による相互不信・対立

恐怖による孤立化・非社会化

情報統制と法的強制



将来のエンドステート「新世界秩序」

パワーエリートをトップとする

地球レベルでの政治・経済・金融・社会政策の統一

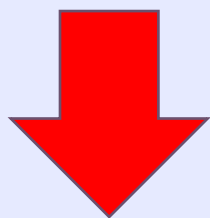
末端の個人レベルでの思想や行動を

完全に統制する管理社会の実現

喫緊の課題

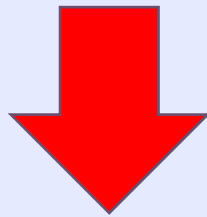
パワーエリートの計画から
国民を守る

パワーエリート計画



バイオ・パンデミックを使った
管理社会の実現

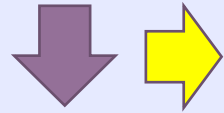
バイオ・パンデミックを使った 管理社会の実現



恐怖による相互不信・対立
恐怖による孤立化・非社会化
情報統制と法的強制

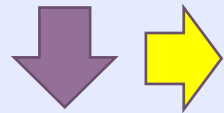
戦後体制を守る保守政体

戦後憲法の思想を国民に強要し、伝統的社会規範を放棄



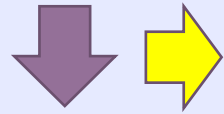
共生共助の共同体の破壊

個人の権限行使こそが最高価値とする現代社会が形成



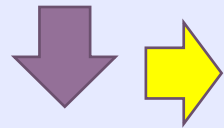
利他的価値基準の破壊

無限の財産獲得を正当とする自由競争原理が国際秩序



民主主義の破壊

市場の指示に従い国民の資産を売却・国民にリスクを強要



国民の人権を剥奪

現政体は米国と市場の要求を守り、日本を守ることを放棄

令和3年7月21日 第64回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会

期間	日数	コロナによる死者数	副作用疑いによる死者数
2月17日～6月27日	131日間	7,531人（1日当たり57.48人）	453人（1日当たり3.45人）
6月28日～7月11日	14日間	282人（1日当たり20.14人）	210人（1日当たり15.0人）
7月12日～7月16日	5日間	73人（1日当たり14.6人）	83人（1日当たり16.6人）

※これにモデルナ製ワクチンによる副作用疑いの死者5名が加わる。

令和3年8月4日 第66回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会

期間	日数	コロナによる死者数	副作用疑いによる死者数
2月17日～7月11日	145日間	7,813人（1日当たり53.88人）	663人（1日当たり4.57人）
7月12日～7月25日	14日間	171人（1日当たり12.21人）	165人（1日当たり11.79人）
7月26日～7月30日	5日間	56人（1日当たり11.20人）	84人（1日当たり16.8人）

※これにモデルナ製ワクチンによる副作用疑いの死者7名が加わる。

令和3年8月25日 第67回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会

期間	日数	コロナによる死者数	副作用疑いによる死者数
2月17日～7月25日	159日間	7,984人（1日当たり50.21人）	828人（1日当たり5.20人）
7月26日～8月8日	14日間	156人（1日当たり11.14人）	163人（1日当たり11.64人）
8月9日～8月20日	12日間	296人（1日当たり24.66人）	86人（1日当たり7.16人）

※これにモデルナ製ワクチンによる副作用疑いの死者22名が加わる。

何故、自分で現実を確認せず
他から与えられた情報に従うのか

習慣化

啓蒙教育
情報化社会
理論的社会システム
合理的思考
法による支配

ショック・ドクトリン

新型コロナのことでガタついている真っ最中だった今年5月19日
これまで業務範囲が非常に限られてきた国内の銀行に、業務内容の
大幅緩和を認める「**改正銀行法**」が参議院本会議で賛成多数で可決
成立となりました。

問題は、事業会社への出資の上限変更です。

従来の法律では事業会社への出資の上限を原則5%と規制がか
かっていたものが、地元の産品などの販売などの地域経済に寄与す
る非上場企業には、**100%の出資も可能**としたこと。

これを利用すれば、融資を受けていてまったく返済の目途が立た
なくなった企業については、融資の減免や利息の免除といった従来
からの金融機関の支援ではなく、**完全に買収して子会社化することも
可能になる**わけです。

地方経済を海外資本に売却

- ◆ 今年5月19日、「**改正銀行法**」が可決成立。銀行が**100%の出資も可能**とした。これを利用すれば非上場企業を**完全に買収して子会社化することも可能になる**
- ◆ 地方の企業で融資に対して返済ができず、その負債を盾にした買収が成立してしまうと**従業員リストラ等徹底的な経営合理化が進む**ことになる。
- ◆ 90年代に海外ファンドの企業買収のような手口で**保有資産の売却なども地銀によって遂行される** というリスクが顕在化することになる。

外国銀行の免許取得急増

外国銀行支店【計56行】（8月24日現在）

アメリカ合衆国【計7行】

JPモルガン・チェース銀行

ステート・ストリート銀行

バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ

ニューヨークメロン銀行

ウェルズ・ファーゴ

シティバンク, エヌ・エイ

ゴールドマン・サックス・バンクUSA

中華人民共和国【計5行】

交通銀行

中國銀行

中国工商銀行

中国建設銀行

中国農業銀行

自己喪失

自分で【リスクを】認識できない
自分で【リスクを】判断できない
自分で【リスクを】管理できない
自分で【リスクを】解決できない

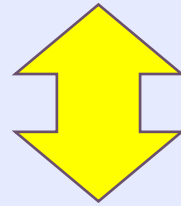
【リスクへの】対処手段を知らない
【リスクからの】回復手段を知らない
【リスクの】受容態度を知らない
【リスクの】教訓化手段を知らない

死生観が確立されていない

講演内容

- 1 「憲法を起草する会」について
- 2 情勢認識
- 3 現状そして将来の問題
- 4 日本文化という将来の選択肢
- 5 私たちの将来は私たちの手で

恐怖による相互不信・対立
恐怖による孤立化・非社会化
情報統制と法的強制



相互信頼・親和
集団化・社会化
情報共有・抵抗

**相互信頼・親和
集団化・社会化**



日本の伝統的文化社会の実現

日本文化

文化とは自然形成された社会慣習
社会慣習は集団の体験から得た叡智

日本人の歴史が育んだ叡智
それが日本文化

集団の体験の叡智

精神的体験→思考、規範等

身体的体験→身体、生活等

日本人の思考

- ◆ 一体としての宇宙・自然観 (産霊)
宇宙→地球→人間
- ◆ 一体としての時間感覚 (中今)
過去→今→未来
- ◆ 万物万有一体の考え (八紘為宇)
大調和を目指す文化

万物万象一体の宇宙観

産霊（ムスビ）

初發之時 於高天原成

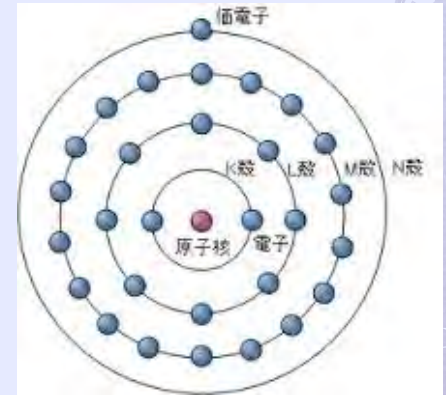
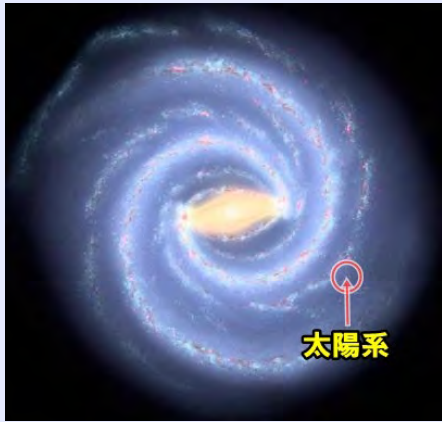
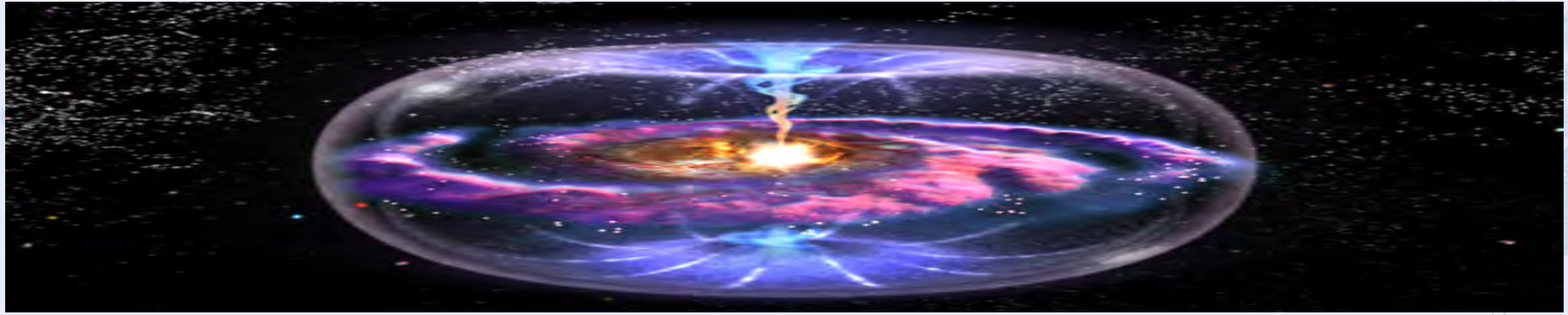
天之御中主神

高皇産霊神

神皇産霊神



中心・循環 全てが相似形



天皇と国民

神代初設之時 於高天原成神

しろしめす

天皇

祈り

在所共同体



「樞原健都の詔」(神武建国のみことり)

それ ひじりの のりをたつ ことわりかならずときにしたがう

れ大人の制を立つ 義必ず時に随ふ

いやくもおおみたからにくぼさあらば、なんぞひじりのわざにたがわん
いやくも民に利有らば、何ぞ聖造に妨わむ

またまさに やまをひらきはらい、 おおみやをおさめつくりて

且まさに山林を披き払い、宮室を經營りて

つつしみてたかみくらしいにのぞみ、もっておおみたからをしづむべし

恭みて寶位に臨み、以て元元を鎮むべし

かみはすなわちあまつかみのくにをさずけたまうつつくしびにこたえ

上は即ち乾霊の國を授けたまう徳に答え

しもはすなわちすめみまのただしきをやしないたまうこころをひろめむ

下は即ち皇孫の正を養ひたまえふ心を弘めむ

しかしてのちにくにのうちをかねてもつてみやこをひらき

然して後に六合を兼ねて以て都を開き

あめのしたをおおいていえとせむことまたよからずや

八紘を掩ひて宇と為むこと亦よからずや

かのうねびやまのたつみのすみかしはらのところをみれば けだしくにもなかか

夫の畝傍山の東南樞原の地を觀れば蓋し國のもなかか

みやこつくるべし

治るべし

生成と時

過去は今に成り
未来は今から生まれる

時は一体
一つのエネルギーの生成過程

万物万象を結ぶのが時

己の「生命を全うする」

生は身体の働き【変化】

命は靈魂の働き【不変】

だから

己の一生(身体活動)を
天命(靈魂作用)に一致させる
不変の原理を変化しながら推進する

*** 使命: 生を以て命に使える**

大楠公最後の一念

正李公

七生まで

唯同じ人間に生まれて

朝敵を

滅さばやとこそ存じ候

正成公

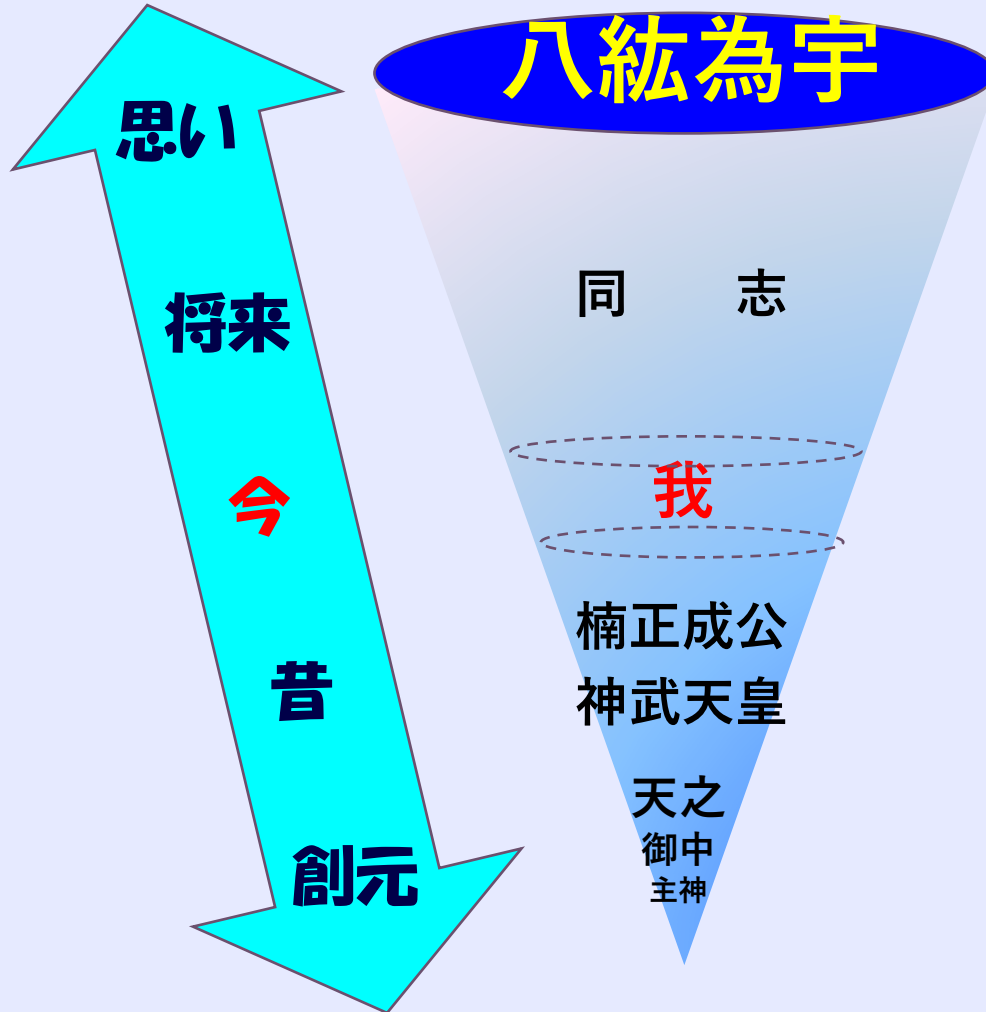
我も斯様に思ふなり

いざさらば

同じく生を替えて

此本懐を達せん

一体としての時 「中今」



出来る出来ないは
無い

現実と理想とは
常に一体
絶望はない

己の一生を
天命に一致させ
使命を完遂する

当事者であることを自覚

- ◆ 宇宙活動（地球、日本、里、家）の当事者
- ◆ 時（過去、現在、未来）の当事者

- ◆ 当事者として「行う」（体験する）
- ◆ 当事者として「知る」（体得する）
- ◆ 当事者に「成る」（体顕する）

万有万象の当事者として力を尽くす

日本人の規範

日本の法は「のり」

動詞の「宣(の)る」の連用形が名詞化したもの。

- ① 守るべき規範、おきて、法律
- ② 手本、模範
- ③ 人としての道理
- ④ 基本尺度

例) 法、律、憲、法、典、範、規、則、矩

祈り(意を宣る)

祝詞(宣りを唱える)

「のり」の発想

- ◆ 建国の**祈り**は、天の下に共に生きる家族のような国家を君民一体となって創り成す
- ◆ 毎年、折々に、人々の思いを**祝詞**として**祈り**
- ◆ その**祈り**を実現するために協心努力し
- ◆ その努力が実れば感謝し
- ◆ 事が成らなければ反省し
- ◆ それを次に生かして祈りと努力を繰り返す。

このような集団の生き方が
日本の慣習法規範「のり」となる。

エリート主義と反エリート主義

●エリート主義(新世界秩序)

パワーエリートが地球レベルでの政治・経済・金融・社会政策を一元的に管理

国民の意見を政治、行政、司法に反映することを「ポピュリズム」や「大衆迎合主義」と誹謗し「愚衆政治」となじる

○反エリート主義(日本文化秩序)

人みな心あり、心おのおの執ることあり。われ独り得たりといへども、衆に従ひて同じく挙へ

講演内容

- 1 「憲法を起草する会」について
- 2 情勢認識
- 3 現状そして将来の問題
- 4 日本文化という将来の選択肢
- 5 私たちの将来は私たちの手で

これからの日本の秩序・世界の秩序

私たちの選択肢

- A 経済競争の勝者に任せる**
- B 誰かが救ってくれるのを待つ**
- C 自分達で正しい秩序を創る**

自己の内に規範を得る

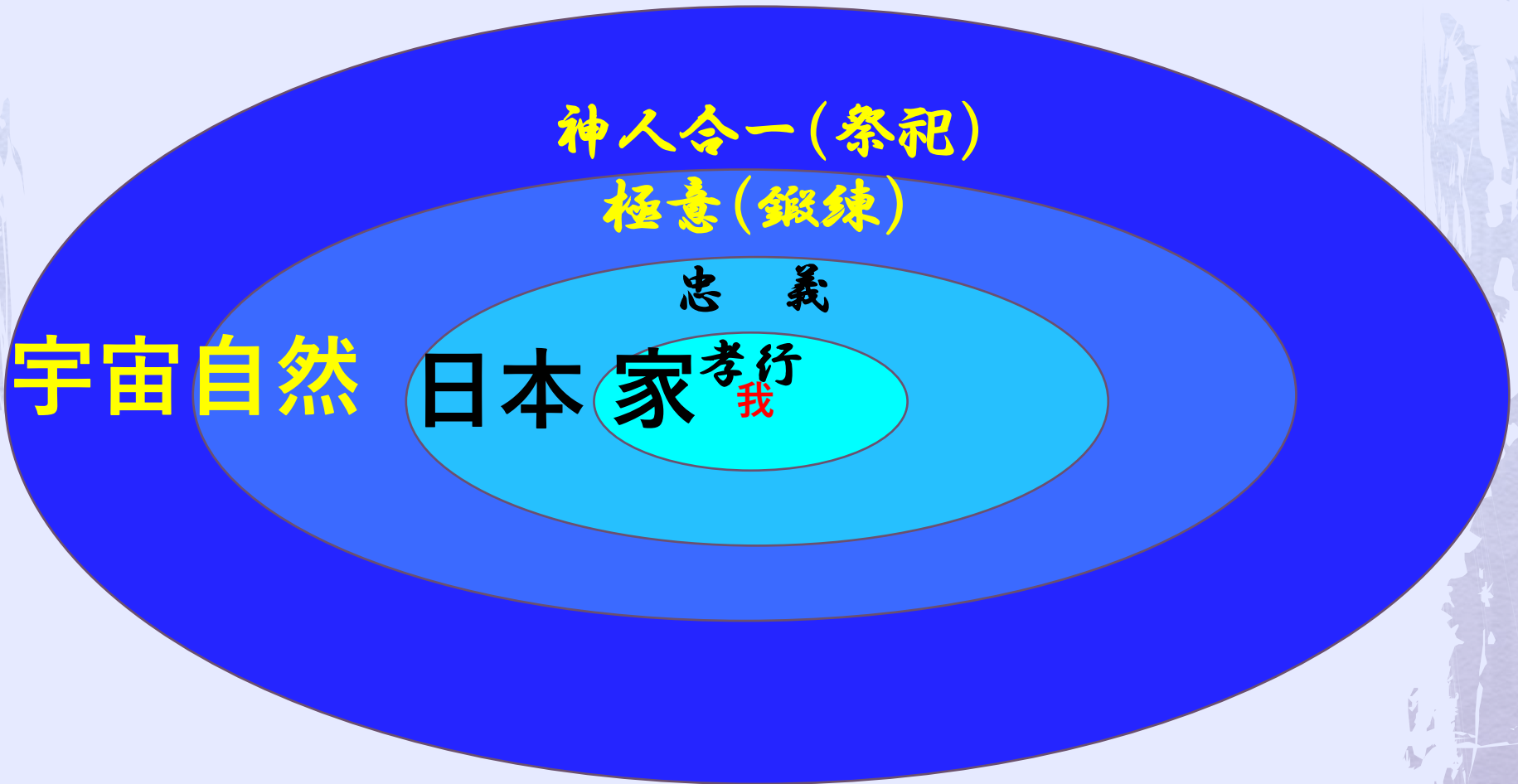
- ◆ 外的尺度にとらわれない(憑依されない)
外的尺度: 思想、哲学、宗教、啓蒙、法等
情報、報道、噂、批評、流行等
- ◆ 自己の内に尺度をつくる
祖先の体験から得た知恵(家訓、家憲、家法)
自己の経験から体感・体得したもの
自己の内なる感性 を信ずる

大調和を目指す 日本の文化社会の実現



相互信頼・親和
集団化・社会化
具体化する手段は
気遣い

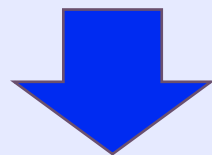
調和の仕方



**新世界秩序を強要し管理社会をつくる為
情報統制と法的強制する
グローバルゼーション**

から

自立した日本の共生文化社会を守



**相互信頼・親和
集団化・共生社会化**

**相互信頼・親和
集団化・共生社会化して**

**正しい情報を共有し
不当な強制に抵抗する**

**日本創成の当事者として
考え行動する**

正しい情報を共有

- 伝統文化規範の共有（教育）
- 味方の情報共有（意思共有）
- 敵の情報共有（敵の理解）
- 環境醸成・情報交換（仲間醸成）

不当な強制に抵抗

- 消極的抵抗(拒否・不服従)
- 抵抗準備(組織・機能・運用)
- 積極的抵抗(防衛行動)

具体的行動

- ◆ 自立した共同体をつくる。
- ◆ 共同体間のむすびをつくる。
- ◆ 共同体間で情報を共有する。
- ◆ 共同体間で相互扶助する。
- ◆ 共同体一丸となって日本文化を護る。
- ◆ 共同体間の規範を日本国家の規範とする。